

全国国公立幼稚園・こども園
PTA連絡協議会

会報

第55号
発行者
全国国公立幼稚園・こども園
PTA連絡協議会
会長 猪木直樹
事務局
岡山県倉敷市玉島阿賀崎1-2-31
玉島テレビ放送(株)内
印刷
株式会社玉島活版所

「一花開天下春」

全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会

会長 猪木直樹



平成最後の年明け、会員の皆さまにおかれましてはさぞ穏やかに新年を迎えられたことと思います。昨年は日本各地で、地震・台風・大雨などによる甚大な被害がありました。一日も早い復興を願ってやみません。今年こそは何も自然災害のない毎日を送れますようにと願うばかりですが、年明け早々に熊本においてまた大きな地震がありました。改めていつ何時何が起こるかわからない時代なのだということを認識して、生活していかなければならないのだと思います。未来を担う子どもたちのためにも我々大人がしっかりと意識をもって準備しておく必要があると思います。

さて、人生百年時代が訪れようとしている中、長い人生をどう過ごすかという命題となつていまいきま。あらゆる分野において改革の嵐が吹き荒れ、個人の生き方においても園PTA連絡協議会を基盤にしていただき、それぞれの地域に

合った活動を推進していただくことを切に願います。昭和三十八年設立という歴史と実績を財産ととらえ、また、先人たちが残してくださったその思いまでを継承していきましよう。その上で今年度も全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会では組織力を高め、各地域の想いをしっかりと受け止め、文部科学省とのパイプをしっかりと構築していき、問題解決への糸口を模索できる団体であるよう努めます。

一人一人の導ける力は小さいけれど、「三人寄れば文殊の知恵」のように、多くの仲間が力を合せて、子どもたちを支え、育てる

原動力となり、一歩一歩前進すれば、すばらしい世界が開けると信じています。
本年八月には茨城県において「みんなが育む笑顔」をスローガンに掲げ、全国国公立幼稚園・こども園PTA全国大会「茨城大会」が開催されます。ぜひ奮ってご参加くださいませようお願いします。いろいろ混沌とした時代ではありますが今を乗り越えましょう。長い冬が終わり春が来る喜びを端的に表現した「一花開天下春(いつかひらいててんかはるなり)」のごとです。力を合せて進みましょう。すべては未来を担う子どもたちのために!

平成30年度優良PTA文部科学大臣表彰

平成30年8月4日第56回全国国公立幼稚園・こども園PTA全国大会「徳島大会」において表彰式が行われた

- 岩手県 花巻幼稚園つくしの会
- 福島県 棚倉町立棚倉幼稚園父母と教師の会
- 東京都 墨田区立第三寺島幼稚園保護者の会
- 新潟県 上越教育大学附属幼稚園PTA
- 山梨県 山梨市立つつじ幼稚園PTA
- 長野県 本郷幼稚園PTAなかよし
- 静岡県 熱海市立緑ガ丘幼稚園みどり会
- 静岡県 磐田市立磐田中部幼稚園PTA
- 愛知県 名古屋市立第三幼稚園三幼会
- 大阪府 堺市立北八下幼稚園PTA
- 兵庫県 上郡町立山野里幼稚園PTA
- 岡山県 津山市立成名幼稚園PTA
- 徳島県 北島町立北島南幼稚園・小学校PTA
- 香川県 普通寺市立筆岡幼稚園PTA
- 愛媛県 新居浜市立神郷幼稚園PTA



特別寄稿

人と人との心をつなぎ

ふるさとを未来につなぐ



全国国公立幼稚園・こども園長会 会長 新山 裕之

〈表参道の幼稚園〉

私の勤務する港区立青南幼稚園は、表参道駅から徒歩五分。表通りには根津美術館やおしゃれなブティックなどがある。しかし、一つ通りを入ると、たくさん木々に囲まれ起伏に富んだ土の園庭では、子どもたちは草花を使ったごっこ遊びや砂遊び、鬼ごっこなどを楽しんでる。あんずやぶどうなど実のなる木々も多く、その生長を見守り、味わう体験もしている。地域の子どもたちを育み続け、半世紀を超える歴史を誇っている。

青山・表参道は、町会、商店会、地区委員会などの地域の方々が連携を取りながら活発に活動している地域でもある。幼稚園で昔遊びの会を企画すると、民生委員の方々が大勢来てくださって、こま回しや折り紙などで子どもたちの頑張りを励まし、新たな刺激をいただいている。赴任するまでは、これほど地域の方々が幼稚園を応援してくれているとは思っておらず、驚くと同時に感謝の気持ちでいっぱいである。

〈地域の魅力を生かす保育〉

園長となって十年が経ち、現任園は三園目となるが、同じ区内であつても、それぞれの地域性をいろいろな場面を感じる。また、園長会の仕事で全国各地の公開保育や研究会に参加させてもらい、PTAの皆さんとも親しくさせてもらつてきた。すると、自然風土や地理的な条件を背景とした地域の歴史や文化がその底流となつていくことも分かつてきた。一人一人に個性があるように、園にもそれぞれの地域性や歴史がある。自然環境で言えば、歴代の先生や保護者の皆さんと一緒に育ててきた木々が大きく育つて実を付けるようになったという例もある。そのような、その園ならではのよさを生かした保育を工夫することは、特に国公立の幼稚園・こども園にとつての課題でもあり、強みでもある。

〈ふるさとから世界へ〉

地域の公立園や小学校は、二十年もすると、巣立った子どもたちが保護者となり、自分が通つた園

や小学校に我が子を通わせる例が多い。だからこそ、懐かしの幼稚園、我が母校という思いが強く、地元や学校を応援してくれる方が多いと言える。

今の子どもたちが将来活躍する場は、今よりも一層世界に広がるだろう。世界に羽ばたこうとする際に、自分が生まれ育つたふるさとを愛し、大事にする心は、その土台としてなくてはならないものであると私は強く思う。多様性を受け止め、他者と協力する姿勢の根っこは、幼児教育で体験を通して身に付くものである。自分のふるさとを大事にできる人は相手のふるさとでも大事にできると思うからである。

自分のふるさとを元気にするために汗を流そうとする人材を育てていく必要性も痛感している。自分たちが住む地域の魅力を知り、それを生かし、心や体に浸み込むような実体験を通して、人や自然を愛する心を、幼児期にこそ育んでいきたいと思う。

〈保育の原点の再確認〉

本会の機関誌である「幼児教育じほう」の平成三十一年一月号の防災教育に関する論説で、福島県園での取り組みが紹介された。放射能被害によって外遊びが制限される保育を経験したこと、自然との関わりや意味や保育の原点を再確認したという内容が、私にとつては印象的であった。

改めて、園庭などで遊ぶことが、決して当たり前のことではなく、実はとても貴重な体験であることに気付かされた。自発性や主体性を育むために、遊びが重要であることを、日本中の読者に実感してもらえたのではないだろうか。

また、最悪の事態を体験しつづつても、そこから前向きに立ち上がるうとする保育に関わる人たちのたくましさや優しさを感じ、うれしい思いでいっぱいにもなった。

〈車の両輪として〉

対応が難しい課題を抱える国公立ではあるが、頼もしいパートナーがいる。それが、全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会(全幼P)である。各園においては、それぞれのPTAが子どもたちの笑顔と幸せのために尽力してくださっている。

昨年は、西日本豪雨被害等があり、全国各地で我々の仲間も大変つらい思いをされた。その後、国公立と全幼Pが協力して行った支援活動では、千五百万円を超える支援金が集まり、大きな被害にあった園に送ることができた。これも、両会が車の両輪として長年築き上げてきた信頼関係の賜物であると誇りに思う。

〈親子の絆を深める〉

国公立の特別事業委員会では、子育ての支援の一環として、運動に関する調査研究とそれを受けて

の親子活動推進事業を行っている。今年度は、「親子で楽しくはなまるチャレンジ」という体を動かすことを日々の生活に多く取り入れる工夫をしたリーフレットを作成し、保護者に配布した。家庭での取り組みと連動することなしに、運動量の低下を防ぎ、体を動かす楽しさを定着させることにはできない。

この取り組みは、単に体を動かすことを勧めることが目的ではなく、親子の心のつながりを深めることが願いの根底にある。それは、保護者が保護者としての力を付けてほしいという願いである。園と家庭という両輪がしっかりと連動しなければ、幼児教育は成り立たないからである。

今後とも、全幼Pとの協力体制を一層強固にし、各園の取り組みを支援し、子どもや保護者の笑顔につなげていきたい。



第五十六回全国国公立幼稚園・こども園PTA全国大会 総会ならびに研究協議会

— 徳島大会 —

大会報告

鳴門の渦潮や祖谷溪、大歩危小歩危など自然豊かな徳島県徳島市において、「徳島大会」が、文部科学省をはじめ多数のご来賓をお迎えし、盛大に開催されました。

「あつまれ わになれ 阿波徳島で〜子どもの明日 語らにゃそんな〜」という永き伝統を受け継いでいる阿波踊りに象徴されるテーマのもと、まさに保護者自身が手を携えて子どもの明日を語り合い未来につないでいきたいという強い信念と深い愛情を感じ、学び合い、確かめ合うことができた二日間でした。提案発表では、三園から園と家庭と地域が力を合わせてPTA活動をしている貴重な実践が発表されました。

記念講演では、児童文学作家のくすのきしげのり先生が「一人ひとりがみんなたいせつ〜子ども心に気づくとき〜」という演題で代表作である「おこだでませんように」をはじめ多くの作品を読んでくださいました。その中で子どもたちの心を大切にすることを再認識しました。

また、今年度より新教育要領が施行となり、園・家庭・地域社会のさらなるつながりを大切にして

いきたいと感じた大会でした。

大会要項

一 大会主題

あつまれ わになれ 阿波徳島で〜子どもの明日 語らにゃそんな〜

二 期日・会場

平成三十年八月三日(金)

ホテルクレメント徳島

八月四日(土)

アステイトくしま

三 日程

八月三日(金)

・会計監査 ・役員会

・理事会 ・情報交流会

八月四日(土)

・開会式 ・表彰式

・総会 ・記念講演

・提案発表 ・文部科学省講話

・閉会式



第五十六回 徳島大会 表彰状・感謝状受賞者(敬称略)

全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会会長表彰

全幼P 監事

熊本県 中尾史子

全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会会長感謝状

全国国公立幼稚園・こども園PTA全国大会滋賀大会運営委員会



平成三十年度活動方針 ならびに事業計画

一 活動方針

四月から全面実施されている幼稚園教育要領の前文の中に「これからの幼稚園には、学校教育の始まりとして、一人一人の幼児が、将来、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を

切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにするための基礎を培うことが求められる。」また、「幼児や地域の実態や課題を捉え、家庭や地域社会と協力して、さらなる充実を図っていくことも重要である。」とあります。まさに今、PTAの存在意義を確立していく時だと思えます。また、昭和三十八年の結成以来、半世紀に渡り積み上げてきた歴史と実績をもって、チームによる子育て応援団としてさらに発展させていくことが使命であると信じます。その実現に向けて、あらゆる課題に対し全国の事例・情報等を参考に解決できるように日々精進していきましょう。そのためには、子育ての第一義的責任を有しながら、国公立幼稚園・こども園の子も育ち親も育つという基本理念のもと、子どもたちの輝かしい未来に向けて組織を拡充・強化していく必要が急務になったと思えます。そして、国公立幼稚園・こども園の先生方が、幼児の資質・能力の育成に向けた教育内容の改善・充実を図ってくださっていることに感謝しながらPTA組織として力をつけ、花を咲かせていかねければなりません。まさに、「一華開五葉」です。幼児教育がすべての子どもたち、親や先生、地域にとっていい方向に進むことを願ってやみません。

記

- (1) 義務教育化を前提とした幼児教育の充実
- (2) 会員の資質向上と組織強化
- (3) 幼児の安全確保に向けた事業推進
- (4) 家庭・地域の教育力の向上
- (5) 情報共有の強化
- (6) 国公立幼稚園・こども園教職員
の待遇改善

二 事業計画 四月〜五月

- ・ 加入園へ会費納入と徳島大会案内状発送
- ・ 未加入園へ加入依頼書と徳島大会案内状発送
- ・ 平成二十九年会務報告と決算報告書作成
- ・ 平成三十年度理事名・加入園名報告依頼
- ・ 全幼P全国大会「徳島大会」の後援名義使用許可願発送
- ・ 徳島大会の助言者依頼
- ・ 二〇一九年度全国国公立幼稚園PTA全国大会「茨城大会」における提案発表について依頼
- ・ 日P広報に関する研究会

大会宣言

昭和38年に設立された全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会は、半世紀以上にわたり保護者・園・地域が手を携えて子どもたちを健やかに育むために活動してきました。私たちPTAは、家庭教育のスタートラインを担う保護者、幼児教育のスタートラインを担う園が中心となり、地域文化を大切にしながらお互いが協力し合って子どもたちを力強くサポートしてきました。



変化の激しいこの時代、最も深刻な課題の一つとされているのが少子化問題です。出生数が最多だった昭和24年約270万人の赤ちゃんが生まれていましたが、平成29年約95万人へと減少し、ピーク時の約1/3の数です。物事にはよしあしがありますが、家庭の継承、地域・文化の継承、国の継承は、大人から子どもたちへと受け継がれていくものですので、今まで当たり前のように在ったものが無くなるというリスクは間違いなく増加しています。そして平成29年政府は、この国難を突破するための策の一つとして「幼児教育の無償化」を提言されました。子育てへの投資は、国も手を差し伸べるべき分野と位置付けられたと確信しています。そして、その具体的な行動は、私たちの日々置かれている現場の状況とリンクしていなければなりません。この状況を鑑みても本会の存在意義は、今後益々高まっています。

私たち若年の保護者は、子育て・教育に関してはスタートラインに立った子どもたちと同列にいます。保護者として子育ての方法や子どもたちとどのように接していけばより良いのか、親育ちの場である学びの機会を作り、参加しなければなりません。園の先生方は、日々の保育に全力をあげて取り組み、地域の方々とのつながりを大切にしています。さらに、幼児教育の現場をより円滑に運営していくためには、家庭・行政執行機関等、たくさんの協力者が必要です。この保護者の声や先生方の声に応え、子どもたちのために組織されているのがPTAです。

そこで徳島大会では、「あつまれ わになれ 阿波徳島で ~子どもの明日 語らにゃ そんそん~」という主題を掲げました。個の力には限界があります。しかし、みんなが集まり手を携えて輪になれば、その力は無限に広がっていきます。私たちは、未来を担う子どもたちのために徳島に集い手を携えて輪になって、家庭教育・幼児教育の現状を学び、それぞれの教育力の向上に努め、次の事を宣言します。

- 一、幼児教育の重要性を広く社会に訴え、子どもたちを守ります。
- 一、家庭・園・地域が、手を携えて笑顔になってPTA活動に取り組みます。
- 一、PTA活動を通して自己研鑽に努め、地域貢献・社会貢献の一助となります。
- 一、困っている子ども、困っている仲間がいたらすぐに寄り添い助けます。
- 一、子どもの安全確保、園の安全管理の強化に努めます。

平成30年8月4日

第56回全国国公立幼稚園・こども園PTA全国大会 徳島大会

- 六月〜七月
 - ・第六十九回全国国公立幼稚園・こども園長会総会「島根大会」にて本会発展の協力依頼
 - ・平成三十年度要望書作成
 - ・表敬訪問（文部科学省）
 - ・第六十五回全国国公立幼稚園・こども園教育研究協議会「新潟大会」出席
 - ・日P広報に関する研究会
 - ・八月〜十一月
 - ・会計監査役員会第一回理事会
 - ・第五十六回全国国公立幼稚園・こども園PTA全国大会「徳島大会」総会ならびに研究大会
 - ・徳島大会決定事項の処理
 - ・会報五十五号原稿依頼
 - ・茨城大会開催について事前打合せ、表敬訪問
 - ・二〇一九年度活動方針・事業計画書案と要望書案作成
 - ・第二回理事会
 - ・理事会での検討事項の処理
 - ・日P広報に関する研究会
- 一月〜三月
 - ・会報五十五号発行
 - ・未加入県へ加入呼びかけ
 - ・平成三十年度会務報告・会計決算中間報告書・二〇一九年度会計算案作成
 - ・第三回理事会
 - ・理事会での検討事項の処理
 - ・「早寝早起き朝ごはん」全国協議会フォーラム参加

研究協議

提案発表1

パパ頑張って、広げよう笑顔の輪
 お父さんによるPTA活動
 栃木県宇都宮大学教育学部



平成三十年度 PTA会長
 上野 拓也
 附属幼稚園

一 はじめに

本園は、宇都宮大学教育学部の附属機関であり、大学と連携をしながら幼稚園、小学校、中学校までの十二年間（もしくは十一年間）、附属学校園での生活が続きます。本園の教育目標は、「しんぼう強く、頑張りのきく子ども」「心豊かで伸び伸びと活動する子ども」「人の話をよく聞き、自分の考えも話せる子ども」「自然や物を大切に育てる子ども」を掲げ、遊びや生活を通して幼児の心身の活動力を高めるよう努めています。

が男性である』ことがあげられます。伝統的に本園のPTA役員メンバーは全員が父親で、そのPTA役員と一緒に、行事担当者並びに会報委員メンバーが幼稚園の行事の一翼を担い、先生方と一緒に運営を行っています。

日頃、お父さんは家庭で園児と接する時間が少ないと言われていますが、本園ではPTA役員のパパたちが園児の笑顔の為に一生懸命PTA活動に励んでいるのが特徴です。

PTAという誰もが堅苦しいイメージを描いて役員になります。PTA活動を経験されたお父さんの誰もが、子どもたちの成長を目近に見られ、子どもたちの笑顔のパワーが何よりの励みになりました。楽しく充実したPTA活動ができたと言います。

三 PTA主要事業について

ここにあげる行事は、幼稚園の意向を受けPTA役員が内容等を協議し、それに基づいて担当の方たちと協働し運営しています。

○父の会

お父さんのお父さんによるお父さんの為の事業、というのが『父の会』の基本的な考え方で、企画・準備・設営・その後の打上げも含めて全てお父さん参加型の行事となっています。

二 PTA活動の概要について

本園PTA組織・活動の特徴は何と言っても、『PTA役員全て

事業内容としては、日頃子どもたちと接する時間の少ないお父さ



んと園児が、共に製作活動を行い一緒に遊び、お子さんについて日頃感じていることを話し合うクラス懇談会が主な内容となっております。お父さんが不参加の場合は、男の近親者をお願いしており、おじいさんや年の離れたお兄さんが参加される家庭もあります。

近年は仕事等で参加できないお父さん方もいらっしゃるのですが、皆さんの参加も見られますが、この方も会の趣旨をご理解いただいております。会について批判的な意見は見られず、みなさん協力的です。

また、父の会事業終了後の父の会懇親会も恒例行事となっております。中学校までの十二年間における長い園生活の中でお父さん同士の絆を深めるきっかけを作る場となっております。

○親子レクリエーション

親子が一緒になって活動を行い、子どもたちの健やかな成長の一助となることを目的としたレクリエーション事業で、園内の事業、園外での事業を隔年で実施しており、昨年は、関東総合レジャーランキングで一位になった『ツインリンクもてぎ』を会場に事業を行いました。自然いっぱい森の中で、親子共々自然体験活動を行ったり、レーシングコースが一望できる部屋にて親子制作活動を行ったり、自由時間には場内のアトラクションや乗り物を楽しむんだり、一日充実した時間を過

ごしました。今年は、園内での縁日が予定されており、夜店、キャンプファイアー、盆踊りなどが企画され、実行されました。

○宮っこパレード

宇都宮市の中心部で毎年八月に開催されるお祭りです。おみこし、パレード、お囃子、踊り等の様々な催しが行われる夏の風物詩となっております。『ふるさと宮まつり』は、今年で四十三回目を迎えます。この宮まつりで行われる、幼稚園・保育園・こども園を対象とした『宮っこパレード』事業に、三年前から本園も参加しています。

四 ほほえみバンクについて

本園のPTA活動の中で長く取組を行っている特徴的な活動に『ほほえみバンク』があります。

この取組は、茨城大学教育学部附属幼稚園で取組を開始した『技能バンク』を元に、二十余年前、本園の特色を取り入れた幼稚園の活動に対するボランティア人材バンクを立ち上げたものがはじまりです。

この取組の基本にあるのは、園児の教育や健やかな成長発展には教職員やPTA役員等の一部の人たちによる参加だけではなく、保護者や地域全体での一丸となった支援体制が不可欠であるという考えに基づいたPTA活動であり、『ほほえみバンク』は誰もが気軽に参加することができる全員参加

型の取組となっております。

ほほえみバンク活動の奉仕的な活動については、園行事等へのお手伝いや、園内で子どもたちが毎日遊んでいる遊具や道具等の補修活動があります。更に、園児の家族の人たちがそれぞれの特技や才能をいかした活動に幼稚園の要望により参加しています。

ほほえみバンク活動の親同士の間では、保護者の方からの「自分たちでの楽しみを活動にしたい」という要望をもとにして始まりました。「コーラス部」「クッキング部」「ガーデニング部」等の活動がこれにあたり、保育や幼稚園の環境整備にも繋がっています。

五 結びに

これからのPTA活動の抱負としては、『子どもたちの笑顔の為に』をモットーに、PTA活動を自ら楽しみながら行い、子どもたちが明るく笑顔で充実した園生活を送れるために、全員参加型のPTA活動を今後とも展開していきたいと考えています。

子どもたちが多くの人たちとの交流や遊び、体験を通じて、様々なことを経験し、学び、相手に対する思いやりの心や感謝の気持ち、慈しみの心、他人のために何かを成し遂げたときの充実感等を育みながら、健やかに成長をしていってこれれば、これ以上の喜び

はありません。子どもたちが明るく笑顔で充実した園生活を過ごし、立派に成長していく過程を身近に見つめ、家庭に帰って子どもたちが園での充実した生活について家族の皆様とコミュニケーションを深めることで、子どもたちがでなくお父さんお母さんも多くのパワーをもらい、一緒に多くのことを学び、成長することができると実感しております。

提案発表表Ⅱ

「子どもと共に・つながり合う・学び合う」PTA活動をめざして

愛媛県 八幡浜市立保内幼稚園 平成二十九年度PTA副会長

堀本 瑞穂



一 はじめに

本園は、四国の佐田岬半島の付根に位置する八幡浜市の北部にあります。近くには小学校・保育所・公民館があるなど、地域との交流もしやすく、また、自然豊かな環境です。園児数は四歳児十二名、五歳児十七名の合計二十九名です。三校区より通い、二校区はバス通園をしています。園庭は芝生が青々と生え、木登りできる木々があり、安心して伸び伸びと遊べる環境です。

二 活動内容

PTAの活動として、園行事の準備や進行、手伝いなどがありますが、その中で三つの観点を大切にしながら進めています。「園行事の中の活動」「保護者がつながる活動」「地域とつながる活動」です。子どもたちを中心に、保護者同士・地域の方々などたくさんの人と「楽しくかわり合う」をテーマに取り組みました。

また、親子で共通体験の場を設け、共に喜びを共有しながら子どもたちも相談しながら進めていきました。

○バザーについて

毎年PTA役員が中心となり準備・運営を行っています。年々園児数が減り、役員数や会員数も減っていますが、会員全員が役員という気持ちで協力し合っています。また、園活動にご理解頂いている地域の企業の協賛により、バザーの品物も充実し大勢の方に訪れてもらい、楽しい交流の場となっております。

子どもたちも楽しいひと時を過ごせるよう先生方にも協力していただき、ゲームコーナーや食べ物コーナーを設け、子どもたち自身がチケットで買い物ごっこができるよう工夫しています。バザーの収益は、PTA活動の親子遠足など行事等に利用しています。

○藍染体験について

初めての取組として、親子で藍染体験をしました。子どもと一緒に何かを作るとい体験は、親にとって貴重な時間となりました。また、自分たちも経験したことの新しい藍染めだったので一つ一つが新鮮で、心が弾んだ体験となりました。

共通した物をみんなが作りあげていくという過程の中で、保護者同士の楽しい会話や子どもたち同士の楽しい姿の中で、一体感を感じることができました。

○育児講座からの学び

子育ての悩みについて気軽に話し合えるよう「お茶の間座談会」をクラスごとに開いています。二九年度は、子育てについての講座を会員みんなで聴ける機会を設けようとマラソン大会後に、育児講座を開きました。

子育ての環境が今と昔では変わってきていることや、子育ての楽しさと大切さなどを講師先生から聞く言葉は、一つ一つが心に届きとても貴重で充実した時間となりました。子どもたちから、手作りのスイートポテトのサプライズもあり驚きました。おいしくいただき心も充実した一日になりました。

また、講演後にアンケートを取り、講演を聞いての思いや感想を書いていたいただき、それをまとめて会員に配布しました。いろいろな人の考えや想いに、あらためて気

づいたり、子育てへの悩みはみんな一緒ということを知り気持ちが軽くなりました。

○お父さんの力をかりて

園庭には桜や藤など樹木が植えられていて四季を通じて目を楽しませてくれます。その中で子どもたちが木登りをして遊んでいますが、登りたくても上手く出来ない子がいて「ロープを縛り、滑り止めができた方がいいの」ということを聞きました。役員のお父さんで詳しい方がいて、すぐに対応してくれました。

最初は、登る用・滑り止め用のロープだけだったのですが、作業をするお父さんに子どもたちが「ここにタイヤのブランコもあつたらいいの」とか「〇〇みたいにして」とリクエストをしていました。

子どもたちの思いを受け止め、自然の木を利用したアスレチック風の遊び場となりました。「秘密基地みたい」といいながら冒険心や「もっと高く登ってみたい」という挑戦意欲もわき、すてきな環境となりました。卒園後も安全面を気にかけて下さり、ロープの張り替えや直しに来てくれます。

三 地域とのかわり

毎年クリスマス等の時期には、近くの老人ホームの方との交流があります。子どもたちがサンタクロースになった気分です歌や踊

り、手作りのプレゼントを準備します。おじいちゃんやおばあちゃんたちからもプレゼントをいただき、昔ながらのわらべうたあそびを教えてもらいふれ合いながら楽しい一時を過ごします。

地域の方や学校などからもいろいろ呼びかけてもらい芋ほりやみかん狩り、そうめん流しなども体験させてもらっています。

また、散歩に出かけるとみかんの差し入れを頂いたり、木工所からはかまぼこ板や木片を頂き、木工遊びにつながったり、丸太の木が楽しい遊びの環境になったりしています。大きな行事としての交流は限られていますが、日々の生活の中で、温かい思いやりに触れることで、たくさんの方々に見守られていて感謝の気持ちや人との関わりの中で育つ思いを大切にしています。

〈感想として〉

役員をしなければ知らなかった地域の方々のつながりなども知ることができました。たくさんの人たちが、子どもたちのために、園のために動いて頂いていることを改めて感じることでできました。地域の中で子どもを育てることの楽しさや大切さなども学べたような気がします。

四 今後の課題として

・親子で共通体験を続けていけるように。

・地域を取り巻きながらできることをしよう。

というテーマを掲げ、これをPTA活動としてつなげていきたいと思えます。

今年度は、公民館の施設を利用して「親子パン作り教室」を計画しました。楽しく、またおいしくみんなで参加できました。

五 まとめ

子どもたちのためにと考えて取り組んでいるPTA活動ですが、実は参加している役員や保護者にとっても大きな学びの場となりました。園全体の行事や活動を通してみんなが共につながり合い、支え合える関係を築いていけたように思います。

「しなければいけない活動」ではなく「したいと思う活動」をこれからも親子で楽しく、親同士で明るく、子どもと共につながり合い、学び合いながらのPTA活動であるよう努めていきたいと思えます。

提案発表Ⅲ

『未来につなげる生活リズム』

『心と体のビートを整えよう!』
高知県安芸郡田野町立田野幼稚園
平成二七〜三〇年度PTA会長

河田 角栄



一 はじめに

田野幼稚園では、生活リズムについて、平成十八年度から幼稚園・小学校・中学校、同じ内容の生活実態調査を実施しています。

PTAが、子どもたちの睡眠時間や食習慣など生活リズムに関する情報を共有することで、ライフスタイルの多様化に伴い様々な課題が見えてきました。

また、幼児期から大切にしていきたい『心育』として、十年間の取組を通して課題の解決策を探るとともに、幼児期の生活リズムが小学校・中学校生活へいかに影響を与えていくのか、心も体も大切にしていきたいという思いを込めて、この研究テーマを設定しました。

二 アンケートの実施

毎年六月、幼稚園生活に慣れた頃に生活実態調査を行っています。調査項目は、平日の起床時間や朝食の有無、降園後の過ごし方について、夕食や就寝時間、休園日の食事やテレビの視聴時間などです。

平成二十年度と比較して、PTAで共有・改善に努めています。①起床時間について

七時までの起床時間が、平成二十年度は50%でしたが、平成二十九年度には90%に増加しています。小中学校の教職員会で確認し、中学生までに六時三十分起床

に向けて取組を進めています。

②朝食について

全員が朝食をとるようになり、各家庭で朝食の大切さが身に付いていることが分かりました。

③朝食時のテレビの視聴について
50%以上と多く、食事に集中できていない、姿勢が悪いなどの課題が見えてきました。また、幼稚園の給食時にも同じ様子が見られていることも分かりました。改善策として、食事中はテレビを消して食事に集中したり、一緒に食べる家族と会話したりするなど意識していきたいと思えます。

④自分からの挨拶について
入園したばかりの三歳児も、大人が挨拶をすることで自分からしようとする姿が見られるようになりました。

⑤テレビやビデオを見る時間について
長時間のテレビの視聴により、視力・認知能力・思考力の低下、言語発達の遅れなどにも影響すると言われています。テレビを見せる時は、子どもの問いかけに答えるなどして、心を通い合わせるツールとして、利用の方法を考えています。

⑥絵本を見る時間について
30%以上の家庭が絵本を読む機会がないという残念な結果でした。絵本を通して、親子のふれあいの時間をもてるように、さらなる声かけと絵本の読み聞かせの大切さ

を伝えていきたいと思えます。

⑦就寝時間について

二十二時までに就寝する家庭の比率は、二十年度も二十九年度も大きな変化はありませんでした。寝る前は、絵本を見たり、静かな環境を作ったりするなど、改善方法を呼びかけ意識向上につなげます。

また、高知県教育委員会事務局生涯学習課が作成した『生活リズムチェックカード』を活用し、四・五歳児が生活リズムについて、冬休み明けの一週間、四項目のうち、できたことに対しては○印や色付けなどを親子で行い、子どもたちにも意識付けができました。

三 田野町一貫教育研究会

田野町では、幼稚園・小学校・中学校が連携し、教職員相互の研究の実施や情報共有を図ることで、幼稚園から小学校へ、小学校から中学校への接続をスムーズに行うために交流活動の充実を図り、連携した研究を進めています。研究会は、年間三回行います。幼小中それぞれを会場に公開保育や公開授業を行い、園児や生徒の姿を参観し、参観後には、知育部会・徳育部会・体育部会の三部会に分かれ、各部会のテーマをもとに研究を進めています。

四 保護者向け講演会の実施

①絵本講演会

内容は、『子どもにとって絵本とは？』『子どもを取り巻く環境』『大人も絵本を楽しむ』『月刊絵本について』でした。就労家庭が多く、講演会の参加者が減少傾向にあります。今後講演会の開催を継続し、絵本の楽しさを保護者自身が感じ、毎週末の親子読書の大切さにつなげていきたいと思えます。

②教育講演会

講演会では、先生自身の子育てを振り返っての反省や提案、生活実態調査による現在の中学生の姿、脳の発達についてお話頂きました。

③保護者講演会

講演会後、改めて『しかる』よりも良いことだと感じ、これからはできる限り、上手にほめて子育てしていこうという肯定的な感想が聞かれました。また、行動しやすさ承認の言葉をかけてほめること、「○○すれば△△できるよー」など前向きな気持ちになれる言葉で伝えることなど学ぶことができました。帰宅後、夫婦間で話し合ったり、実践に取り入れたりした家庭もあり、子育ての参考となる講演会となりました。

五 中学生の生活リズム(平二九)

とその子どもたちの幼稚園時代の生活リズム(平二〇)を比較

現在の中学生の生活リズムと、その子どもたちの幼稚園時代の生活リズムを比較することにより、心と体が成長するにつれて、今の園児たちにとって何が大切なのか、生活リズムを身に付けることで『すべては自分で考え、行動する』姿につながることを学ぶことができました。

六 まとめ

この度の研究のねらいは、取組を反復することで、生活リズムを体が覚え身に付き、幼児期以降の生活に必要な体のビートを整えることと、食事中の会話や絵本の読み聞かせなどで心育を充実させ心のビートを整えることでした。しかし、生活リズムの大切さは、頭では分かっているも日常の繁忙にまぎれ、ついつい流してしまいうという現状も垣間見えました。大切なのは、生活リズムについて一緒に考えたり、会話を増やしたり、親子が時間をともに過ごすということ。朝起こさなくても目が覚める、目が覚めたらお腹が空くなど、自らが体のリズムをビートを刻んでいくこと、子どもの思いに寄り添い、具体的な言葉で子どもに話しかけ、『ほめて・ほめて・ほめる』取組を継続していきたいと思えます。PTAでは、各家庭に「自分たちの子どもの心の成長のために」こういった提案や講演会を続け、一人でも多くの



吉谷 正

指導助言

文部科学省生涯学習政策局社会教育課 PTA等共済室 PTA等共催指導係長

皆さん、こんにちは。文科省の吉谷と申します。よろしくお願ひいたします。発表いただいた三つの園について、コメントをさせていただきます。 最初は、宇都宮大学教育学部附属幼稚園の活動についてですね。父親が中心ということですが、多くのところでは、やはり母親が中心となって活動されて、母親の皆さんもかなり負担だという風なこともあります。ここではお父さんたちが頑張っているということがありますね。

「父の会」でしたか、最近はおやじの会とか父の会とか多くありますけれども、そういったお母さんたちの負担を減らすという目的もあるのでしょうか。私の子どもは一人っ子でもう大学二年生なので、幼稚園とか子育てというのは終わりに近いんですけれども、幼稚園の頃あるいは小学校の頃、もう少し父親として関わっておけばよかったなど、今になってちよっ

と反省するところがあります。

そういった意味でも、お父さんが中心に頑張る、お父さんのためにやるという関わり方も、かなり良いのかなという風に感じました。それからPTAの役員のメリットというのは、やはり一番身近なところで子どもたちの成長を見られるというようなことがあるのかなと思っています。

それから、「宮っこパレード」、あるいは「もちつき行事」ですね。こういった地域の祭り、あるいは季節の行事というのも大変大きなことで、私自身も小さい頃、両親に連れられてお祭りですとか地域の行事に参加させていただいたことというのは強烈に思い出として残っていますので、伝統や文化、あるいは郷土を愛するという気持ちを育むというような面では非常に重要なのかなと思います。

それから、「ほほえみバンク」ですね。参加しやすい仕組みづくりという面では、大変評価されるものであると思います。親同士の親睦を深め教養を高める活動ということは、まさにPTA特有のものであるし、親同士の学びもなければやはりやっている人たちも楽しくないし、意義という面でも欠けるのかなと思いますので、そういったところは大変評価できるところなのかなと思います。

それから、愛媛県八幡浜市の保内幼稚園のところですけども、

三つの観点である「親同士がつながる活動」、「地域とつながる活動」、それから「園行事の中の活動」を大切にしながら進めているというところですが、こちらも大変『楽しく関わる』という面で非常に良いのかなと思っています。

それから、「藍染め体験」ですね。こちらのお話があつて、実は私、岩手・宮城・福島の被災地の支援事業に関わつておりまして、つい最近、福島県の方に視察に行つてきました。富岡町という所ですけども、人口で住民登録上は一万三千人なんですけれども、実際に帰つてきている方が、六百六十人。

その中で学校は一つしかないんです。そして、小学生が十七人しかいないんです。中学生は四人しかいない。高校生は〇人なんです。その富岡町で、小・中学生というのは二十一人しかないという状況の中、学校を中心として子どもたちを住民全体で支えているというような活動をしておりまして、その中で実はこの「藍染め」というのが出てきておりました。

私も徳島では藍染め体験をしたことはありますが、福島で藍染め体験に出会うとは思わなかったんですけれども、地域の方々が藍染めを趣味としてやってらっしゃつて、それを子どもたちに総合学習の時間で教えているというようになるところでした。

こういったものづくりを通じて、先ほど想像力を高めるといってお話がありましたけれども、まさにそういった地域の方々も巻き込みながらやっていくことで、子どもたちの想像力を育みつつ、ものづくりというのは楽しい思い出になりますので、そういったところが大変良いのかなと思いました。

それから、お父さんの力を借りてですね、先ほどもありましたけれども、やはり父親の場面、お父さんも良い場面を見せる良い機会でもありますので、こういったところもぜひお父さんたちも頑張つていただければ良いのかなと思っています。

それから、地域との関わりというような面で老人ホームを訪問したり、あるいは運動会・お祭りでも練りを披露したりということでも、地域住民との関わりも大事にしたところかなと思っています。

最後ですね、田野幼稚園さん。こちらは、園だけではなくて県教委とも協力をしながら、これは十年ぐらい調査した活動のようなんですけれども、そういったところを一つのテーマとして長期のスパンで取り組んできて、PTAとしてそれらに役立つ実証検証をしながらPTAの家庭教育支援につながるような取組をしていたということでした。

得力もありますし、これに基づいて色々具体的な対応も立てられたということ、非常に面白い取組かなと思つております。早寝・早起き、子どもの生活習慣ですね。小さい頃から生活習慣を整えておくということが非常に重要なかなと思ひました。簡単ですが、以上です。

指導助言 Ⅱ

全国国公立幼稚園こども園長会 会長



新山 裕之

す。確か三つぐらいしかないとはいえません。その中の一つということですけども、最初の方に歴史のことがありました。どの園も色んな歴史や背景があるのですけれども、古い歴史があつて、それを一番感じたのは、教育目標の「しんぼう強く、頑張りのおきく子ども」でした。とても心に響きました。あまりそういうことを最近言わなくなつてきているのですけれども、そのところが思いの中には強く残っています。

それから、役員が全員男の方というのなかなかないんじゃないでしょうか。普段なかなか子育てに関わることがそれほど多くないお父さん方が、子どもたちのために頑張っている姿を見せるというのは、とても大切なことだと思います。先ほどの絵本の読み聞かせのところでもお話をしてくださいましたけれども、「あんな大人になりたいな」、「大人ってこんな面もあるんだな」というところを見せる必要もあるのではないかなと思つています。

三つの提案の中で共通している部分がありました。PTAってやつてみると良さが分かるということ。登山と同じかなと思います。登るまでは「大変かもしれない、こんなところ登れるかな」と思ひながら、途中苦しいけれども、実際お互いに声を掛け合いながら仲間

と一緒に登って頂上について良い眺めを見たときに、「ああやってよかったな」と、きつと思う。そういうところがPTA活動にもあるのではないかなと思います。

大人が面白がっていることを見せることがとても大事です。中学、高校まで続く大人同士の関係のきっかけ作りだと思います。ここにいる皆さんはPTA活動の一年生・二年生・三年生ぐらいですかね。小・中・高と続くPTA活動の最初の入口にいる保護者の方たちが、PTAっていいものぞ、ちょっと大変な部分ももちろんあるけれども、やることで自分自身も育つことができる、地域に仲間が増えるということを感じてほしいと願っています。

次に、八幡浜の保内幼稚園ですけれども、とても小さな幼稚園です。地方によってはこういう小さな幼稚園で頑張ってくださいといるところがたくさんあります。実際二十九人のうち九人が役員って、ほぼみんな頑張るしかないという感じですよ。役員だけが頑張ればいいという話ではないので、みんなが主役という思いでやっていたらいい、とても嬉しく思いながら読ませていただきました。これも「楽しくかわり合う」というテーマだったり、それから地域に向いて行って、地域の企業の方たちに協力していただいたりとか、地域との関わりを

大事にしているというところも、とても大事なことだと思います。

親子遠足のためにバザーをしたという話もありました。幼稚園はデイズニールランドではありませんが、子どもたちが楽しむところではありますが、誰かが楽しいことを与えてくれるところではありません。楽しくなるような環境は教師が整えます。但し、そこに子どもたちがどう関わっていくか、それは子ども次第なのです。主体的な子どもたちを育てるためには、先生たちもそれから保護者の皆さんも主体的にならなくてははいけませんというのを保内幼稚園の発表からも感じる事ができました。

それから藍染めの話です。そういう共同体験、共通の体験、ワクワクするような体験を一緒に親子ですることや、心弾む体験をすることは、とても大事なことです。自分たちで何かを創り上げていく、チャレンジしてやってみる、初めてのことに挑戦してみる、そういう体験。「どうなるのかな、分からないな」って。自分の手で、肌で、目で、耳で、鼻で感じるという体験と一緒にすることが心に刻み込まれて、その子たちの大きくなつたときに、「心のふるさと」になるのではないかなと思います。

マラソン大会の後の育児講座「お茶の間座談会」。ネーミングも可愛いですよ。こういうネーミングも、ぜひ皆さんのところで参

考にされるといいと思います。

それから、お父さんの得意技の話がありました。ロープを結ぶ技術を使って、というのがありました。それぞれの園にいろいろな方がいらつしやいます。この大会自体もたくさんの方々、保護者の方たちが大会を支えてくださっています。いろいろなところで昨日から参加いただいている方たちが、それぞれとても素晴らしい動きを見せてくださっていて、本当に感心させられています。

これも幼稚園の先生たちだけではできないかと改めて思っていますし、こういう力が合わさるからこそ、このPTA活動、幼稚園と一緒に子どもたちを育てることができているんだと改めて感じています。

それから、三つ目の田野幼稚園ですけれども、どこかの幼稚園の研究発表に来たのかと思ひ、びっくりしました。しかも幼稚園だけではなくて町を挙げて、幼・小・中と一緒に長いスパンでやっているところがとても素晴らしい取組だと思つて、本当に感心させられました。

それから、何年かの間に起床時間が圧倒的に改善されたというところ、50%から90%になったというのが素晴らしいですね。朝食も100%、親子一緒に食べているというところも何とも素晴らしい話です。もう一つ、挨拶のところ、自

分からの挨拶ができるかという、その一言が私はとても気に入りました。お母さんたち、子どもたちを連れて幼稚園に行くときに「挨拶しなさい」と言つて、頭を手で押さえつけていませんか。親と一緒に「おはようございます」と園長に言つてください。

それをつつと子どもたちは見ながら、「そうしようかな」と思つてやります。お母さんに頭を押さえつけられて挨拶するのは挨拶ではないので、ぜひそんな風にしてみていただけると有り難いです。結局、大人が背中を見せることが大事なんだと思います。

一つ少し驚いたことは、読み聞かせをしない家庭が30%あるということ。今日、先ほどの講演会も聞いていただいたので、ぜひ皆さん読み聞かせをしてあげてください。字が読めるからといって、読ませるようになることではないんですよ。親御さんがどんな言葉でもかせる、その言葉のリズムとか雰囲気とか、それが大事です。是非大きくなるまで聞かせてあげてください。

三つの園のお話の中には本当にどの園でも、ある意味どこでもしかしたらできるようなことをやってくださっていることがあつたと思つています。既にうちも同じようなことをやっているよ、という思いでご覧になつていた方が

たくさんいらつしやると思いますが、その中で、ちょっとここがひとつ参考になったなというようになことを、ぜひ取り入れてほしいと思います。

三人の方々が口々に言つてくださったのが、楽しみながらやるのが大事というところですね。昨日・今日のこの大会も、運営して下さっている方々が皆さん笑顔で動いてくださっていますよ。大変な部分ももちろんあるとは思いますが、やるんだから楽しくやろうという構えが大事だと思います。

私は自分の園でも必ずその話をするのです。だってそれは子どもたちが見えますよ。やはり大人が良いモデルを示していく、仕事に対する構えを見せていく、生きる構えを見せていくためにも、大人が楽しく仕事をする姿、仲間と力を合わせていく姿をぜひ見せてほしいなと思います。

PTA活動を主体者として保護者の皆さんがやつてくださるというのを、三つの園が紹介していただきました。ぜひこの素晴らしい発表を全国津々浦々に広げていただいて、幼稚園・こども園のPTAが、保護者と園の先生たちが一緒に子どもたちを育てていく良い参考になるといいなと思つています。どうもありがとうございます。お疲れさまでした。

記念講演

『一人ひとりが みんなたいせつ』
くすのきしげのり



児童文学作家
くすのきしげのり氏

私は、小学校の教育の現場にいてそれから図書館の管理職、そしてまた現場に帰って、今作家として活動をしています。

振り返って思うことは、子どもが幼稚園ぐらいの学齢期には、忙しいからこそ子どもと一緒に本を読んでもあげてくださいと、お父さんやお母さん方、お家の人にぜひ伝えていただきたい。スマホを見ている時間があるのなら、子どものために、子どもと一緒に本を読んでもいただきたい。それは、子どものためにというだけではなく、お父さんやお母さんにとっても自分の人生の中でもとても楽しい大切な思い出になる訳です。

子どもが「読んで、読んで」と持つてくるのは限られた期間です。ですからその期間をしっかりと子どもと一緒に過ごしていただきたい。そうすることによって、子どもは本を好きになります。本を読むことが好きになります。

本を読むということはいろんな効果があります。文字を覚える、語彙が豊富になる、情操が豊かなる、知識が増える。でもね、ま

ず「楽しむ」ということから進めていただきたいと思っています。

一つの子どもの行動でも、たくさんの方々が、要因があります。朝、怒られてから来た子。家庭が大変な状況になっている子。虐待を受けているということも考えられる。内科的に疾病がある子。発達障害もその中の要因の一つ。そして先生が大嫌いという子。いろいろな要因があるということ。

そんな時に大事なことは、想像する力であり、共感する力です。今、一緒にやったように絵本ひとつ取っても、文章を読むだけではなく画面を読む。そこには想像力を働かせることが大切になってきます。

力がなければできません。

大学で教えていて、教職を取っている学生に、どんな先生になりたいかと聞くと、「子どもにも慕われる先生になりたい」と。それは大事なことです。でも、もつと大事なことは、「先生、先生」と寄ってくる子よりもそばに寄ってこない子、一人でいる子に、まず気がつき、その子のことを一番に考えられる先生になってほしいということ。

人の世にありて、あるべき温もりを。そして幼児教育という環境による保育が言われます。私たち大人は子どもが育つ環境を作っています。そして大事なことは、私たち自身が環境であるということなのです。

今、皆さんの目の前にいる子どもたちに皆さんがかける言葉、一緒に読む本、そして皆さんが見せる姿、それが子どもたちの将来の行動を規定することがあります。私たちは環境を作っていると同時に、私たち自身が環境であるといううことなのです。

私たち大人は、子どもによくこういうことを問いかけます。「あなたは将来、何になりたいですか?」では、こう問いかけたらどうか。「あなたは将来、どんな人になりたいですか?」と。子どもからは、優しい人になりたいとか、友だちが多い人になりたいとか、元気な人になりたい、いつも

ニコニコしている人になりたい、といった答えがちゃんと返ってきます。

「何になりたいですか?」と問いかけて返ってくるのは職業です。「どんな人になりたいですか?」と問いかけて返ってくるのは、生き方に関わる答えです。皆さんも私たちも、これを考えることができます。子どもには、ぜひこの二つの要素を心にとどめながら、夢とか志を持たせてあげてほしい。保育士になりたい、幼稚園の先生になりたい。じゃあ、どんな先生になろうかなあ。このところをしっかりと問いかけてください。

私たちは環境を作ると同時に、私たち自身が環境である。子どもが憧れる幼稚園の先生、子どもが憧れるお父さん・お母さん。それは私たちが環境であるということ。そう考えると私たち自身が一

人ひとり、自分の人生を大切にす

変な仕事をしています。でも、いいですか、先生方がすり減ってしまわないように、心も体も大切にしたいです。

今日は、「一人ひとりがみんなたいせつ」ということでお話をしました。これはね、皆さんの前にいる子どもたちが、ということだけではありません。皆さんご自身が、ということなんです。

皆さんが笑顔だったら子どもや家族は楽しい気持ちになります。私たち一人ひとりがみんなたいせつということ。一人ひとりが輝きながら生きる。自分の人生を、そして今日という一日を自分の意志で大切に生きるということなんです。

私は、これからも子どもたちの心を見つめて、笑顔のために希望の物語を書いていこうと思いま



平成三十年度 表敬訪問報告

平成三十年十月十一日全幼P
猪木会長、新山全国国公立幼稚
園・こども園長会長、同事務局
長、全幼P副会長等が文部科学
省へ表敬訪問を行った。そして、
国公立幼稚園・こども園の実情
をお話しさせていただいたり、
諸問題につきましてお願いをし
たりしました。(ここに要望書の
全文を載せる)

すべての幼児が完全に就園で
きるよう、次の項目を強く
要望します。

- (1) 市区町村に対する公立幼稚
園・こども園設置義務化の
ための法整備
- (2) 三年保育の実施拡大
- (3) 待機児童対策の一つとし
て、子育ての支援及び預か
り保育のための財政措置
- (4) 財政難を理由にした幼稚園
の統廃合抑制・民営化の阻
止
- (5) 子ども・子育て支援新制度
における認定こども園の推
進に対し、従来の幼児教育
の質の高さの継承



要 望 事 項

一 国策として、幼児教育振興・
充実を図っていただきたい。
い。

公立幼稚園・こども園
未設置市町村が、全国で
九百三十一(53.5%)あります。
これら未設置市町村を解消
し、幼児教育を希望するす

公立幼稚園・こども園は
小・中・高等学校と教育環境
において様々な格差があり
ます。幼児教育充実のため、
人的、物的、及び、制度的
環境の整備拡充がなされる
よう、次の項目について特
段のご高配をお願いします

- (1) 専任園長、副園長・教頭、
養護教諭、事務職員の配置
発達の特性に応じたきめ細
やかな指導をするための正
規教員数の確保
- (2) 幼児教育専門の指導主事の
配置
- (3) 安全管理・危機管理の人員・
施設・設備等の改善
- (4) 幼稚園・こども園施設の耐
震化推進
- (5) 国公立幼稚園・こども園教
員の職責にふさわしい処遇
を図っていただきたい。

人間形成の基礎を培う重要
な幼児期の教育にかかわる幼
稚園・こども園教員待遇改善
と、資質向上を目指し、次の
項目実現のための制度を確立
してください。

- (1) 幼稚園・こども園教員に対
する教育職俸給表の適用
- (2) ライフステージに応じた研
修経費の確保
- (3) 正規雇用の促進

平成三十年度 理事会報告

第一回

期日 八月三日(金)
場所 ホテルクレメント徳島

鳴門の渦潮や祖谷溪、大歩危小



県は二〇二四年度、研究協議提案
県は二〇二〇年度まで決定済の報
告があった。

役員選考については、各プロッ
クから選考委員を選出し、委員に
より役員が選出され、理事会で報
告された。

第二回

期日 十一月十五日(木)
場所 国立オリンピック記念
青少年総合センター

猪木会長、新山国公立幼稚園長
挨拶の後、徳島大会山崎運営委員
長からのお礼の挨拶があり、大会
が成功裏に終わったことを確認し
た。

続いて、二〇一九年度の活動
方針・事業計画案・茨城大会に
ついて、要望内容等を協議した。
また、今後の大会開催県、研究協
議提案県の確認をした。その後、
文部科学省初等中等教育局幼児
教育課 先崎卓歩課長から幼児教
育の現状と課題についての講話を
拝聴した。

第三回

期日 二月二十一日(木)
場所 国立オリンピック記念
青少年総合センター
(開催予定)

歩危など自然豊かな徳島県徳島市
において、各県の代表による理事
会が行われた。
猪木会長、の挨拶の後、山崎大
会運営委員長から大会の概要説
明、国公立幼稚園長会の挨拶の後、平
成二十九年度会務・決算報告、本
年度活動方針、事業計画・予算報
告、PTA活動振興功労者表彰、
優良PTA文部科学大臣表彰、全
幼P会長表彰・会長感謝状贈呈に
ついて報告をした。二〇一九年度
茨城大会古林運営委員長より開催
地の取組の説明があった。また
二〇二〇年度富山大会田中運営
委員長の挨拶があった。大会開催

おめでとう

手をつなぎ心をつないで
みんなでつくるPTA活動

上越教育大学附属幼稚園

PTA会長 浅山加奈

この度、平成三十年年度優良PTA文部科学大臣表彰を拝受いたしました。ありがとうございます。PTA会員の尽力はもとより、歴代のPTA会員、PTA役員の皆様のご努力、地域や大学の皆様の温かいご理解とご協力の賜物と心から感謝しております。

本園は上越教育大学の広大な敷地内に位置し、豊かな自然環境に恵まれています。その自然環境を取り入れた園舎・園庭・深い森の中へと続く緑の小道をフィールドに、四季折々の自然、多様な動植物と共に子どもたちはのびのびと園生活を送っています。

【PTAの紹介】

本園PTAは、開園翌年の平成九年に設立され、以来二十二年間、献身的かつ熱心な活動が引き継がれてきています。

園児の豊かな園生活を支援すること、会員同士の親睦を深める活

動になることを念頭に、毎年スローガンを掲げています。今年度は「みんな 手をつなぎ心をつなぎ」をスローガンとし、

保護者が自主的・自立的に活動しています。三役、三つの委員会(文化、厚生、広報)、学級委員会(構成される運営委員会、交通安全委員会、七つのグループからなる「ふぞくボランティアネットワーク」があります。

【出会】

文化委員会が保護者向けの本棚「であいの森文庫」を管理・運営し、PTA会費で購入した図書の貸し出しを行っています。子育てや自身のスキルアップ、リフレッシュなどに生かせるような図書の実充に努め、多くの保護者が利用しています。本棚の前で本を勧め合ったり感想を伝え合ったりする姿が日常的に見られ、ネーミングの通り、保護者同士の出会いの場となっています。

【学び合う 分かち合う】

保護者が子育てについて学び合



い、気軽に話しながら悩みを分かち合う場として、年二回「ふぞくフォーラム」を開催しています。

春は、園長先生、副園長先生より園の教育方針や子育てについての御講話、秋は、保護者からの要望を参考にテーマを決め、本学の先生を講師に招聘しての講演会や演奏会などを開催しています。これからは、平成九年度より二十二年間継続されている本園のPTAの伝統的な活動のひとつとなっています。

今年度秋は、本学教室を会場に、野口孝則教授による「幼児のための食育講座」を開催しました。本園保護者はもちろんのこと、附属小・中学校保護者の参加もあり、食育について学び合うと共に、附属三校園の保護者同士の親睦を深めるよい機会となりました。また、秋のふぞくフォーラム恒例の学生食堂での昼食会では、上越市特産の野菜をふんだんに

使った、ふぞくフォーラム限定ランチをご提供いただきました。美味しい食事を共にしながらの交流にはどのテーブルからも笑い声があふれました。

「悩みの多かった食事作りのヒントが得られ、気持ちがあ楽になった」「先生や他学年の保護者と話ができよかったです」「楽しかったのでまた参加したい」等、参加者からは喜びの声がたくさん寄せられました。

【安全】

本園の園児の多くが自家用車で登降園しています。園児と保護者の安心安全な登降園を守ることをねらいとして交通安全委員会(三役、学級委員長が所属)を組織し、活動しています。

新人園児保護者への駐車場利用説明会、年二十日間程度の駐車場の安全のための見守り活動、交通安全の向上を目指した市の指導



員を招いての交通安全教室の開催、駐車場混雑時の誘導、利用に関する連絡・相談の窓口にもなっています。保護者や園児の交通安全への意識は高く、チャイルドシートやシートベルトの着用、親子での手つなぎ歩行等の好習慣の定着につながっています。

【整理】

毎年、春と秋の休日には「パパジジの会」が活躍します。男性の保護者や家族が園のために力仕事をしてくれるのです。春は雪囲いの撤去作業、畑や花壇の耕し、砂場や土山の掘り起こしをするなどして、雪が消えたばかりの園内の環境を整えます。秋は、雪囲いの設置、遊具の格納などをして上越地方の豪雪に備えます。

また、園児が遠足で出かけている時間帯や昼食等で室内にいる時を利用して、花壇やプランターへの花苗植え、草取り、窓拭きなどの美化活動をしています。こちらは参加者の多くが女性です。未就園のお子さん連れで参加してくださる方には無理なくできる室内作業をお願いしています。実施日には幅をもたせて天候に対応できるようにし、また、数日間のうちで各人の都合に合わせて参加できるようにするなど、保護者の負担を減らしつつ確実に作業ができるよう工夫しています。

保護者の惜しみない協力には大変感謝しています。

【つながり】

七つのボランティアサークル（ソーイング、クラフト、フラワー、DIY、図書、読み聞かせ、見守り保育）があります。保護者のできる範囲で無理なく、得意分野や興味のある活動に参加可能です。園内には先生方と相談しながら作成された保護者手作りのおもちゃ、掲示物がたくさんあります。既製品はひとつもありません。保護者の思いのこもった品々はどれも園児たちのお気に入りです。

毎週火曜日にお揃いのエプロンを着けた保護者が本棚の前に集まると、待つてましたとばかりに園児が寄ってきます。読み聞かせの始まりです。誰のお母さんでも関係なく、膝に乘ったりびったり寄り添ったりしながら絵本を楽しむ様子は火曜日の朝のお馴染みの光景となっています。また、水曜日は、各クラスの帰りの会に読み聞かせをします。本選びと園児の真剣な眼差しや可愛らしい反応は、保護者の大きな楽しみと喜びになっています。

豊かな園生活を支える喜びを肌で感じ、園と繋がることのできるボランティア活動には多くの保護者が参加しています。また、活動を通して保護者同士の親睦も深まっています。



【終わりに】

PTA活動を通して保護者や先生方が繋がり和やかに活動する姿は、子どもたちにもその心も温かさが伝わり、園生活や家庭生活がより輝きを増すと感じています。この度の受賞は、大学当局からも喜んでいただきました。これを励みに、これからも私たちは手をつなぎ、心をつないで、会員みんなで心をひとつにPTA活動を行ってまいります。

「笑顔 つながり」一助で みんなで楽しく元気に」 (三幼会のスローガン) 名古屋市立第三幼稚園 園長 伊藤茂美

本園は、大正四年に開園して以来、百四年の歴史があります。戦

災により園舎が焼失した際には、地域・保護者の強い要望と協力を得て復興し、全国のモデル園として全国から参観者が訪れる園となったことは、地域・保護者の誇りとなって現在まで受け継がれています。歴代三幼会会長、後援会会長、同窓会会長始め、地域・保護者・歴代園長・教職員の皆様と共に歴史と伝統を築き守ってきた園です。今回文部科学大臣表彰を受賞する運びとなりましたことは、本園に携わった多くの方のご尽力のお陰と深く感謝しております。

創立当初より「三幼会」と呼ばれる本園のPTA活動は、主に父親で構成される役員、主に母親で運営する珍しい組織となっていました。本園ならではの役員が存在は大きく、その役員の総意は「園児を楽しませること、そして自分たちも楽しむこと」で、この熱い思いで園行事の一部を企画・進行したり、委員の活動を支えたりして活動を盛り上げてくださっています。保護者同士が親として高め合い、つながりを深め、笑顔でいられることを常に心に留めて進めてくださっています。大変有り難くうれしく、感謝の気持ちでいっぱいです。



・おすもうさんと遊ぼう会・夕涼み会・焼き芋会・お楽しみ会・餅つき会・節分・お話し会 ◎委員（主に母親） 常任代表 常任副代表 他十六名 ◎文化部◎厚生部◎図書部◎広報活動 以上の組織で進めてくださっています。役員実施の行事の一部を紹介させていただきます。

【おすもうさんと遊ぼう会】（保護者・未就園児親子も参加） 役員のお骨折りにより二十七年度より実施しており、名古屋場所の時期に相撲部屋から力士を招待し、四股踏みや取組の披露の他、力士と園児・役員が相撲を取ったり触れ合ったりして楽しい時間を過ごします。役員と力士によるパフォーマンスが園児にも好評で、力士と参加者全員が一体感を感じ楽しみ、好評を得ています。

【夕涼み会】（保護者・未就園児親子も参加） 夏休みに入った最初の土曜日の夕方に園行事として「夕涼み会」を開催しています。夕暮れの普段とは違った園の雰囲気を感じたり、家族と園で過ごしたりしながら、お祭り気分を大いに味わって楽しんでほしいと開催しています。職員の出店を役員が手伝ってくださったたり、役員独自で企画した出店（お父さんコーナー）を担当して下さったりしています。威勢のいい呼び込みとゲームを盛り上げる楽しい雰囲気は園児たちは大喜びです。

会の終盤には、保護者サークル「第三バンド」によるライブがあり、さらにフィナーレには、真つ暗になった園庭で役員によるラタ芸・火花があり、暗闇に光る明かりや色とりどりの火の輝きに歓声を上げて見入っていました。帰って行かれる皆さんのその笑顔から元気をいただき幸せを感じます。全ての方々に感謝です。

「お楽しみ会・節分」

(在園児のみ参加)

ハサリタさんに変身してプレゼント渡し・鬼に変身して豆まき

園行事のお楽しみ会ではササリタクロースと、豆まきでは鬼と出合い、園児はワクワク・ドキドキを感じながら様々に思いを巡らしま

「本当のササリタさんだ！プレゼントはどこで作っているの」「煙突がないのにどうやって入ったの」と不思議がったり、怖がりながら必死に「鬼は外、福は内！」と鬼に豆をまいたりするなど様々な園児の姿が見られます。園児に、心を揺さぶる機会を作って、園児を温かく見守ってくださいています。



「お話し会」(在園児と保護者が参加)
紙芝居の読み聞かせ・親子で体操

降園後の十五分程、親子で絵本

に親しんでもらおうと、委員による絵本等の読み聞かせを年に三回程実施して下さっています。毎回趣向を凝らして手遊びあり、楽器あり、寸劇ありなどして親子で楽しめるよう工夫して下さっています。特に昨年度は、最終回に、役員が担当を引き受け、大きな紙芝居をお父さんの声で読み

「餅つき会」(在園児のみ参加)
十二月中旬に例年、餅つき会を実施しています。会の進行、餅つき、園児の餅つきの補助など、役員で盛り上げて下さっています。また、その傍らでは、出来上がった餅を鏡餅や一口大の餅にと、大



勢の委員・ボランティアで手早く作って下さいます。さらに、隣の部屋では、大きな鍋にたっぷり汁を作り一口大になった餅を入れてお雑煮作りに職員は大忙しです。米が炊けた匂い、湯気、威勢のいい力強い掛け声、餅をつく音、割烹着を着たお母さんたちの作業等、園児は餅つきならではの風習を、五感を通して感じ、伝統行事に触れる機会に恵まれています。

「終わりに」

他にも数々の活動を園児の喜ぶ顔、保護者のつながりのためにと、役員・委員も楽しみながら進めて下さっています。このような姿からは園の職員も元気をいただいています。教育・指導に対するご理解も得、園運営も大変円滑に進み、感謝の気持ちでいっぱいです。まさに「笑顔 つながり 一助で

みんな楽しく元気に」(三幼会のスローガン)となっています。今後もこのスローガンのもと、三幼会と職員が一丸となって、様々な活動に取り組んで参りたいと思

「おはなしサークル」

『なかよし』

松本市立本郷幼稚園

PTAなかよし代表 浅井美和

この度は、『平成三十年度優良

PTA文部科学大臣表彰」という栄誉ある賞を頂き、ありがとうございます。また、徳島大会にて、賞状を頂くという貴重な体験をさせて頂き、大変光栄に思っています。歴代の保護者の皆様、先生方、地域の皆様方の温かいご支



援の賜物と感謝しております。

「なかよし」の由来

本郷幼稚園、おはなしサークル『なかよし』は、今から十三年ほど前に、園児のお母さんたちによって作られたサークルです。その頃、幼稚園には、なかよし図書館という図書館があり、親も本が借りられたそうです。そして、お母さんたちの絵本の読み聞かせが、誕生日会などで始まり、それが発展していききました。『なかよ

し』という名前も、『なかよし図書館』からいただいたのだから。読み聞かせの中で、手袋シアターや、パネルシアターをやるようになります、その後、人形を作るのが得意なお母さんによって人形劇が上演されるようになったとのこと。そして、段々と今現在の『なかよし』が形作られていきました。人形劇、パネルシアターの他にも、ペープサート、大型紙芝居など、歴代のお母さんたちによって作られた演目も、倉庫に所狭しと並んでいます。どれも、力作ばかりで、細部にまでこだわった作りで、小道具などは本物の様です。

「読み聞かせ」

『なかよし』の活動の基本は、絵本や紙芝居の『読み聞かせ』です。毎月二回、各クラスに行き、



降園前の十五分〜二十分くらいの時間を使って、『読み聞かせ』をしています。子どもたちは、お話が大好きで、楽しいお話、ドキドキのお話、どんなお話でも、目をキラキラさせて聞いてくれます。毎回、「今日は、〇〇ちゃんのお母さんだ」と歓迎してくれ、「何の本読んでくれるの?」「もう終わり?」「もう一冊読んで」と楽しみにしてくれている様子です。読む側も、本を選ぶ時、子どもたちの顔を思い浮かべながら、「今度は、どんなお話を読もうかな?」と『読み聞かせ』に行くのを楽しみにしています。

三年間で、『読み聞かせ』してもらった絵本や紙芝居の数を数えてみると、大体百冊以上になりました。幼稚園で読んでもらった百冊以上の本が、子どもたちの心を豊かにしてくれていると良いなと思います。

【お話の会】

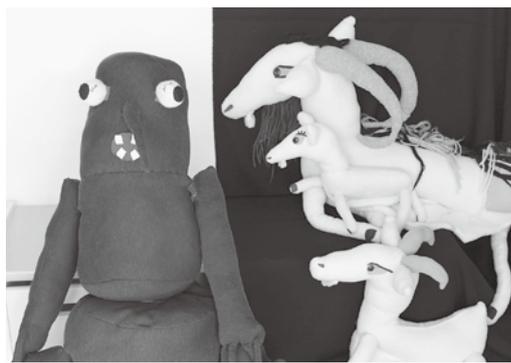
もう一つの『なかよし』の活動は、『お話の会』を開く事です。『お話の会』は、幼稚園の園児向けに、年四回、幼稚園のリズム室で行っています。演目は、ペープサート、大型紙芝居、パネルシアター、人形劇で、全て歴代のお母さんたちの手作りです。

その季節に適した演目を選んで、子どもたちに見てもらっています。十二月は、ちょうどクリスマス時期なので、『なかよし』のお母さんたちの手作りの小物を、子どもたちにプレゼントすることも、毎年恒例になっていきます。作業の時間も設けて、お家で飾れるものなどを作りし、当日プレゼントしています。今年も、ミニリースにしました。子どもたちは、とても喜んでくれました。器用なお母さんがたくさんいて、「人形劇に使う〇〇が欲しい」、「この〇〇は直しが必要だね」と言うと、「作ってこようか?」「直してこようか?」と申し出てくれて、作品が足されたり、リニューアルされたり…を繰り返しながら、十四年間、大切に受け継がれてきています。

その中でも、子どももお母さん一番驚くのは、『さんびぎのやぎのがらがらどん』というお話に



出てくる、トロールの人形の完成度です。本場に『ばらばら』になるように作られていて、オオヤギとトロールが戦うシーンでは、戦いで『ばらばら』になった腕やら目やらが、園児たちの方へ飛んできて、子どもたちは大騒ぎになります。大喜びの子もいれば、怖がる子もいて、反応は様々ですが、とても印象深い作品です。



や、保育園などに声をかけて頂き、見て頂く機会が増え、メンバーも嬉しい悲鳴をあげています。家事や育児の合間を縫って幼稚園の会議室をお借りして、その都度、三回くらい練習日を設け、リハールをしてから本番に臨みます。当日、突然、お子さんの体調不良でお休みをしましうお母さんもいますし、色々なハプニングがつきもので、練習通りいかないこともあり、変な汗をかきながら、一生懸命、子どもたちを喜ばせよう瞬間です。



何よりも、一つ一つの演目を楽しそうに見るキラキラした目に支えられ、『なかよし』の活動は続いできたのだと思います。

【終わりに】
子どもたちが「本を読みに来て」と言ってくれ、「お話の会、楽しみ」と言ってくれる。それが、何よりも嬉しく、この『なかよし』というサークルに出会えて、活動をさせてもらえて良かったなと思う瞬間です。

私事ではありますが、一番上の娘が年中時から始め、息子、一番下の娘に至るまで、このサークルに七年間お世話になりました。『なかよし』を通して出会った、たくさんのお話と、メンバーと、園児と先生方が、私の財産にもなりました。子どもたちの心も育んでもらいました。

今後、本郷幼稚園と園児とともに、何年も何十年も『なかよし』が続いていくことを祈ります。願ってやみません。そして、少しでも、この活動が、子どもたちの心に『豊かさ』をもたらし続けていたら、本当に幸せだと思えます。

結びとなりましたが、榮譽ある受賞を励みに、今後とも、子どもたちの情操教育に一役買えるように、メンバー一同頑張っていきたいです。

第57回全国国公立幼稚園・こども園PTA全国大会

茨城大会ご案内

大会主題

みんなで育む こどもの笑顔
~いくじのすばらしさきづくために~

期日 2019年8月9日(金)・10日(土)
場所 つくば国際会議場エポルカ(理事会・総会・大会)
ホテルグランド東雲(情報交流会)



茨城県 県章

全国国公立幼稚園・こども園
PTA連絡協議会章

第五十七回全国国公立幼稚園・こども園
PTA全国大会
茨城大会
茨城大会運営委員長 古林 敏幸

第五十七回全国国公立幼稚園・こども園PTA全国大会茨城大会
運営委員長の古林敏幸と申します。
日本は少子高齢化の時代で子ども数は減少しています。家族の形態が変わり、価値観も多様化しています。平成二十七年四月に、幼児期の教育や保育、地域の子育て支援を進める「子ども・子育て支援新制度」スタートしました。このようなことから、今、幼児期の教育の状況が大きく変わってきています。
保育ニーズの高まりや認定こども園の数が増えたことにより、園児数が減少していて、幼稚園の数も少なくなっています。
このような中、二〇一九年十月からは三歳から五歳の全ての子どもの保育料が無料になるようです。保育料が無料になる計画が進められています。
子育て支援制度や働き改革などから、幼児教育施設に預けられる人数は多くなっています。また、これと同時に幼児教育の質の向上も求められています。
幼児期の教育は将来の人格形成

の基礎を培う上で極めて大切で、近年の国際的な研究成果等により、その重要性の認識はますます高まっています。
このような時こそ私たちが子どもたちとしっかり向き合い、幼児教育の充実と望ましい教育環境を推進していくことが必要です。家庭の大切さを再確認し、私たちが親、家庭、社会から学んだことや受け継いだことを振り返り、子育ての中に活かしていくことが大切であると考えます。
国公立幼稚園・こども園全国大会茨城大会は、二〇一九年八月九日(金)と十日(土)の二日間、茨城県つくば市にて開催する運びとなりました。つくば市は研究学園としての魅力がたくさん詰まっています。国際会議等も何度も開催されています。
開催に向けては、早くから実行委員会を組織し、広く県内会員の創意と英知を結集し準備を進めてきました。
本大会では、「みんなで育むこどもの笑顔」~いくじのすばらしさきづくために~を大会テーマに掲げ、実践活動報告・講演会・情報交流会を展開していきます。子育てに携わる全国の仲間が一堂に会し、研究協議や交流を通して、会員の皆様の見識や資質の向上に役立つことをできればと考えています。
茨城大会では、第一回島根大会から連綿と受け継がれてきた「幼児教育の重要性と家族の役割の大切さ」に「茨城らしさ」を加味し、次代につなぐ役割を果たしたいと願っています。茨城から全国の子育て奮闘中の仲間に向け、情報を発信し、家庭の教育力を高めることや、子どもたちの健やかな育ちに役立つ大会にできればと、決意を新たにしているところです。
たくさんのご参加を茨城県国公立幼稚園・こども園PTA全員がお待ちしておりますのでどうぞよろしくお願ひします。

平成三十年度
顧問・役員のご紹介

顧問

- 高橋 勝明(元全幼P会長)
萬里小路伸一郎(前全幼P会長)
上枝 秀則(元全幼P副会長)
今井 昇(元全幼P副会長)
太田 慎彦(前全幼P副会長)
新司 英子(前全幼P事務局長)
酒井 幸子(元全園国公立幼稚園長会長)
岡上 直子(元全園国公立幼稚園長会長)
池田多津美(元全園国公立幼稚園長会長)
荒木 尚子(元全園国公立幼稚園長会長)
岩城眞佐子(元全園国公立幼稚園長会長)
関 美津子(元全園国公立幼稚園長会長)
新山 裕之(元全園国公立幼稚園長会長)
深町 芳弘(元全園国公立幼稚園長会長)
楚阪 博(前全園国公立幼稚園長事務局長)
佐藤 忍(全園国公立幼稚園長事務局長)

役員

- 会長 猪木 直樹(岡山)
副会長 大関 敏寛(秋田)
" 中川 博喜(東京)
" 吉田 尚(愛知)
" 谷村 利貴(大阪)
" 野々村卓也(島根)
" 山崎 篤史(徳島)
" 清松 督雄(大分)
" 箕輪 恵美(園長会)
" 山岸 芳子(滋賀)
" 広瀬 泰弘(徳島)
" 星野 育代(茨城)

事務局

- 事務局長 角屋 純子
書記 神崎 貞子
会計 児玉真寿美